

<福島県知事賞>

「税金で助け合う世界に」

白河市立東中学校 1年 鈴木 優妃

私が税金とは、どのようなことにどんな理由で使われているのかを知ったのは、小学6年生くらいの時です。

私は、社会の授業で税金の種類やその役割について調べたり、先生の話や税金の大切さについてのビデオなどを見たりして税金を知りました。私は、税金について知る前も知った後も、他人事のように「へえ、そうなんだ」「税金なんてただ高いお金を払って、誰かのために使われるなら得がないじゃない」という風に思い、そこまで関心がありませんでした。でも、私のそんな考え方は、ある出来事をきっかけにがらりと変わりました。

それは、一緒の家に暮らしている祖母が倒れてしまい、救急車を呼ぶことになったことからです。救急車を待っている間、私は生きた心地がしませんでした。「大好きなおばあちゃんが死んじゃう。どうしよう。早く助けに来て」とずっと心の中で言い続けていました。救助の方々が早く家に来て祖母を助けてくれた時は、ほっとして、また涙があふれてきました。「死ななくてよかった」と思い、救急隊の方達には、家族みんな感謝の気持ちでいっぱいだったと思います。私は、その時に涙で顔がぐしゃぐしゃで声にならない声だったので、お礼を言うことができなかったことを後悔しています。それから私は、この出来事をきっかけに、税金で、いざという時や普段の何も変わらない生活で数えきれないほどの人達に支えられて生きているということを実感しながら、生きるようになりました。

世の中には、税金を払わない。払いたくないというような人もいると思うけれど、たった10円、20円の税金を払っている人のおかげで今、とても幸せに暮らしているという人が絶対にいると思うし、これから、税金があつて助かったと思う人もいると思うので、感謝の気持ちを持ち、税金を払っていきたいと思うようになりました。

また、税金があつて助かつたと思つた人が、税金を払い、それに助けられた人が、また税金を払いたいという気持ちが生まれることで、世の中の税金を払いたくないという人も、少しは減つて、もっとよりよい世界につながるのではないかと考えるようにもなりました。

あの時の出来事が起こっていなかったら、きっと今も、昔の私の考え方で私は生活していったのだと思います。でも、こうして税金に向き合う心が生まれて本当に良かったと思うし、今度は私も税金で誰かのほんの小さなことでもいいから力になりたいと、税金を払うたびに思うようになります。大げさかもしれないけれど、税金へ向き合う気持ちや心で私の人生は、なんだか毎日が楽しく、キラキラしていて、良い方向に変わることができたんだと思ひました。なので、これからも、税金を払い続けていき、誰かの役に立つことを願っています。